



一球入魂

Vol.6

「ご挨拶」

松商野球部OB会長

福岡

進

日頃より、松商野球部OB会ならびに現役野球部の活動にご理解とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。



世間では、新型コロナウイルス感染症による閉塞感が深い負の影響が出ており、OBの皆さんも普段の生活ペースとの違いに戸惑いを感じているのではないのでしょうか。現役の部員も学園生活にかなりの影響を受けております。授業はもとより部活動にも多大な影響がでております。全体練習の自粛により3月は24日から練習を再開したものの、2班に分けて4時間以内の練習、また密集にならないようにと工夫しての練習でしたが、4月に入って再び練習が禁止となり練習試合もままならず、春の北信越大会が中止となりました。夏の甲子園大会の開催も懸念される中、スタッフ・部員とモチベーションを維持するのに大変苦労している様子が覗えます。学校も保護者、OBの訪問を規制し苦労しております。我々OBはこんな時何をしてあげられるのか、励ましの言葉とともにご意見を学園のホームページ、OBのウェブサイトにて投稿をください。

OB会の期待しているマスターズ甲子園の開催も懸念されております。そんな環境の中、OBの皆さんは世代は違っても松商学園のグラウンドで流した汗と涙は、時を超えても共通するものがあるのではないのでしょうか、3年間努力したグラウンドへ元気な姿を見せていただき、現役部員を激励していただければと思っております。練習の再開には学校のホームページ、ウェブサイトにアクセスして確認いただきたいと思っております。この難局を松商野球部がオールインワンとなって乗り切り、現役部員の晴れ舞台の活躍を期待しましょう。

「いあこやん」

松商学園高等学校硬式野球部 部長

松宗

勝

日頃よりOB会の皆さまにおかれましては、野球部の活動にご理解、ご支援をいただき心より感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症が学校、そして野球部にも大きな影響を与え、3月4日から22日まで1回目の休校、4月10日から2度目の休校により野球部の活動も自粛せざるを得ない状況になりました。普段当たり前のようにはなっていたことができなくなり、野球を思うようにすることすらできないこの状況に無力さを感じています。生徒の気持ちを思うと悲しい気持ちでいっぱいになります。しかし、いつまでも悲観的になっては前に進めません。感染症対策を万全にしながらも野球部としてできることに前向きに取り組んでいきたいと考えています。ある植物学者は

「朝顔の花はつばみに24時間、光を当てても花は咲かない。」

朝の光に当たる前に、夜の冷気と闇に包まれる時間が不可欠」と言っていました。今の社会の状況が必要だったということではありません。このような状況になってしまった以上、今できることを自分なりに考え行動に移すことができれば、この状況が収束したときに自分自身の大きな成長につながっていることだと思えます。

OBの皆さまには事態が収束しましたら母校のグラウンドに足を運んでいただき、現役の選手達に皆さまの思いを伝え、激励していただければうれしく思います。また、くれぐれもお体にご留意ください。

OB会の発展ならびにOBの皆さまのご健勝を祈念申し上げます、あいさつとさせていただきます。

「今を大切に」

松商学園高等学校硬式野球部 監督

足立

修

日頃より硬式野球部に対し、暖かいご支援ご声援を賜り深く感謝申し上げます。本年は新入部員が25名加わり、総勢99名の野球部となりました。

昨秋、新チームとなりスタートしたチームスローガンは「Challenger (チャレンジャー)」。元氣深刺・全てに感謝」です。全員が松商ファミリの一員としてチームの和を重んじ、チームファーストの精神を常に持ち戦い、皆で幸せを分かち合おうとスタートしました。しかし今、新型コロナウイルス感染症という未曾有の危機に日本国内はもとより全世界が見舞われています。高校の休校は現在も続いており、2月末に学年末テストがあったことから2月後半から現在までほとんどグラウンドでの練習が出来ていない状況です。もちろん練習試合はゼロです。

しかし学校が休校になり、寮も解散せざるを得なくなった時に選手とは、「今できることは何か、やらなければならないことは何かを考え、残された夏の選手権大会開催に向け、感染拡大予防に積極的に協力し、出来る範囲の中でやれる練習をしっかりとやっていこう」と誓い合いました。今でも自宅の周りなどで練習を重ねてくれていると思います。

これは誰のせいでもなく天災です。今この状況の中で磨かれるのは不屈の精神です。高校野球の歴史を見ても、幾度となく遭遇した困難を乗り越えてきたように、今、全ての高校球児がそれを乗り越えようと取り組んでいます。コロナが終息し、休校が解除されましたら、是非皆さんグラウンドに応援しに来てやって下さい。

私たちが今できることは、様々な情報に惑わさないこと。そして「大会の開催は自分では決められないが、それでも立ち向かう!」「練習もままならないが、それでも立ち向かう!」を心に強く刻み、「松商魂」を持って臨んで参りたいと思います。



「オフシーズンの取り組みについて」

松商学園高等学校硬式野球部 部長 松宗 勝

硬式野球部では11月から2月までのオフシーズンの期間を利用して、このチームを「いいチームにしたい」「この仲間と一緒に戦いたい」と思えるようなチームにするため、そして人間力の向上を目指すために様々な取り組みをしてきました。昨年11月からオフシーズンに行ってきた様々な取り組みを紹介します。

①台風19号災害ボランティア

昨年10月に発生した台風19号災害は長野県各地にも大きな被害をもたらしました。野球部生徒の中で大きな被害を受けた生徒はいませんが、学校の生徒の中には1階部分が浸水し、家具等がすべて失われる被害を受けた生徒もいました。同じ地域に住んでいる者として何か力になれることはないかと考え、野球部指導者、生徒全員で11月から12月にかけて4回ボランティア活動に参加しました。ニュース等で被害状況を見ていましたが、実際に現場に行ったときに言葉を失いました。穂保地区ともありましたが、想像以上の被害でした。

野球部の生徒は力があるということもあり、主な活動は家の中に入った泥を出す作業、リンゴ畑にたまった泥



を運ぶ作業でした。一日の作業を通してキレイになった場所もありましたが全体から見ればほんの一部であり、あらためて復旧には多くの時間、人の支えが必要であることを感じました。一度失ったものを取り戻すということとは並大抵の努力ではできない、それなりの覚悟が必要であることを肌で感じました。

また、レストラン「どんぐり」の浅田さんには野球部の生徒のために昼食の炊き出しを準備してください、ボランティア活動をする上での心構えも指導してください、ありがとうございました。誰かが困っているときには支えあい、励ましあう心の温かさも感じる事ができました。ボランティア活動終了後に生徒に感想文を書いて提出してもらいましたが、「当たり前のように過ごしている日常に感謝して大切に過ごしたい」など、生きていく上で大切な何かをそれぞれが感じていました。このボランティア活動の経験を通して、困難な局面にぶつかったときにどのような心構えで取り組み、前に進んでいけば良いのか、そして、その時には多くの人のつながりが大切であることを教えていただきました。

野球に置き換えれば、大きな目標をつかみ、困難な状況を越えていくためには、揺るぎない覚悟と日々の小さな積み重ねが大切だということではないでしょうか。この経験を野球部での活動そして人生につなげ、一人の人間としてたくましく生きてほしいと強く願います。



②伊那食品工業株式会社見学

伊那食品工業株式会社は「かんでんぱば」で有名な寒天のトップメーカーであり、1958年の創業から2006年までの48年間増収増益を達成するなど、毎年着実に成長する同社の経営姿勢に関心を抱く人々は多く、帝人、トヨタグループ幹部等が同社を見学に訪れている企業です。「いい会社を作りましょう」を社是とし、独自の企業経営の基本にあるのは、「凡事継続」と「いい会社だ」と思ってもらえることを実行することであり、社員の幸せを第一に考えていることです。

会社は「運命共同体」、社員は「ファミリー」。「働く場を快適な環境にすれば、社員は幸せを感じてくれるはずだ」という考えのもと、社員が自主的に始業前に出勤し、自分で必要だと思う場所を掃除する。また、会社の前の道路は片側1車線で、入るときに対向車を右折で待つと、後続車が詰まって渋滞するため、大回りして左折で入る。駐車場の周りに植物があれば、排ガスがかからないように前向き駐車をする。社外でもスパーなどの駐車場では、店に近い場所は妊婦やお年寄りが駐車できるよう、なるべく離れた場所に止める。単に経営上の数字が良いというだけが「いい会社」でなく、会社をとりまくすべての人々が、日常会話の中で「いい会社だ





ね」と言ってくださるような会社が「いい会社」であり、「いい会社」は自分たちを含め、すべての人々をハッピーにする。

このような企業の姿に興味を抱き、野球部では5年前より企業見学をしています。昨年12月にも現3年生と共に見学ならびに講義を受けさせていただきました。その日は土曜日で休みにもかかわらず行った時には掃除をしている社員の姿もあり、一緒に掃除に参加させていただきました。その後、塚越社長より上記の会社の取り組みを聞かせていただき、このような企業もあるのかと驚くとともに、野球部の取り組みにもつながるヒントがたくさん



ん隠されていると肌で感じることができました。現在、野球部では部員一人ひとりの人間的成長を追求し、仲間と一緒に幸せを分かち合うために「いいチーム」を目指し、支え、応援して下さる全ての方々に感謝を届けることを活動方針に掲げ日々活動しています。

甲子園に出場し、勝ち進んでいくという目標と活動する目的を見失うことなく、これからの様々なことからヒントをもらい前に進んでいきたいと思っています。



③松本市民祭・松本あめ市参加

毎年11月に行われる松本市民祭、1月に行われる松本あめ市に、時代行列の一員として、また抽選会場のスタッフとして参加させていただいています。

歩行者天国を時代行列の一員として練り歩きますが、休憩中に多くの人に声をかけられます。「どこの野球部なの?」「松商学園野球部です」「いつも応援しているから頑張ってるな」このようなやりとりが毎年あります。あらためて地域の方々に応援され、注目されている存在であることを感じます。嬉しさとともに身の引き締まる思いを感じ、常に松商学園野球部の看板を背中に掲げて

いることを自覚し行動しなければならぬと思います。そして、地域の方々から応援され愛されるチームになるために、このようなイベントに積極的に参加させていただくとともに、試合、練習では全力疾走、全力プレーを心掛け、応援してもらえらるチームになるための努力を積み重ねていきます。

④年末アルバイト

野球部では冬休みの期間を利用して毎年アルバイトを行っています。OBの皆さまの中にもアルバイトを経験された方は多いと思います。

近年は生徒全員で4日間アルバイトを行い、働くことの大変さ、親への感謝などを肌で感じ野球部の活動に生かしています。昨年末は熊谷製麺株式会社、株式会社アイリリーはやしや、有限会社清水製麺所、サン・フーズ株式会社の方々にご協力いただきお世話になりました。生徒にはアルバイト終了後にその経験で感じたことを感想文にして提出してもらいました。「作っている立場からすると何千個だけとお客様の立場からするとたった一つのもの」「親が働いて得たお金で野球道具を買ってもらっているので大切にしたい」など、普段経験できないことを経験する中で多くのことを感じたようです。その立場にならないことがはたくさんあります。しかし、その立場の方々のことを考えて行動することはできます。自分との戦いであるとともに相手との戦いでもある野球にこの経験を生かしてほしいと思います。



選手一覧

<p>【一年生】</p> <p>赤羽 爽 百瀬 竣都 石田 憲成 栗原 英豊 小池慎之介 田島 碧人 逸見 翔太 朝日 悠成 金井 創 小宮山旺河 千野 優</p> <p>堀内 一惟 三本木義将 降旗航太郎 古海 拓真 吉水 真斗 小野 直哉 田中 陸 出川 凌大 西村 樹 井口秀太郎 一之瀬颯斗</p> <p>笠原 陸功 河上 和真 塩原 聖也</p> <p>総勢99名</p>	<p>【二年生】</p> <p>宮川 遥翔 大橋 快生 朝比奈大翼 今井 英寿 熊谷 大生 鈴木 竜平 田村 駿拓 夜久 亮太 岩淵 晴大 栗原 壮輔 名取 拓実 野田 留輝 渡邊 大恒 荒木 海斗</p> <p>荒田 佳祐 石川 楓真 今井 裕太 牛丸 丈一 大澤 温人 金井 榛吾 高崎 脩 宮下 淳輝 篠田 快 瀧川 大生 忠地 大樹 羽入田師音 堤 陽翔 土井 和斗</p> <p>藤石 烈翔 間中 大介 山寺 晴矢 渡邊創治郎 齋藤 優也 柴田 入毅 西 倫太郎 宮坂 稜久 加藤 光 金原 蒼樹 清水 悠利 織茂 秀喜 塩原 諒真 中澤 瑞季</p>	<p>【三年生】</p> <p>大澤 泰紀 小山 直人 高崎 開 塚田 朝陽 梨本 勝斗 濱 央飛 保田 喜信 赤羽 陽多 岩田 大空 坂本 大星 笹川 拡夢</p> <p>菱田 万尋 宮沢 航太 妻鳥 樂灯 青柳 周吾 竹節 春希 田所 徹 辻 大輝 長野 健大 原 歩夢 柳原 世那 竹内 公希</p> <p>田中 秀和 肥後 正優 依田 基暉 金井 駿 鹿ノ戸幹生 竹内蓮太郎 夜久 舜介 二村 兼登 今村 太郎 長岩 和希</p>
---	---	---

指導者名簿

部長 松宗 勝	監督 足立 修	顧問 高山 幸大	顧問 金井 洋貴	顧問 清水 克海	コーチ 松本 匡礼	コーチ 池田 匡駿	コーチ 松山 直弘	トレーナー 萩原 和昭
---------	---------	----------	----------	----------	-----------	-----------	-----------	-------------

部員心得

松商学園高等学校硬式野球部
平成二十六年三月二十日作成

- 一 野球選手である前に松商学園生徒であれ
- 一 礼儀は和の基である
- 一 常に松商野球部という和あることを忘れるな
- 一 常に謙虚であれ
- 一 態度・言語は正直・明快であれ
- 一 清楚な美は心から生まれる
- 一 我慢は自分のためである
- 一 健康管理に細心の注意を怠るな
- 一 常に反省したならば失敗は少ない
- 一 成長の場に立つ以上闘志を持ち続けよ
- 一 逃げ道をつくるな
- 一 本気で努力・研究することは成功への道
- 一 確固たる信念を持つ
- 一 自立心を養え
- 一 けじめをつけよ
- 一 凡時徹底を忘れるな
- 一 用具を大切にすることは精進の表れ
- 一 上級生は下級生が決める
- 一 下級生は上級生が決める
- 一 野球は社会に通じることを忘れるな
- 一 全てのことにありがとう

誓詞

今日一日怒らず、怖れず、悲しまず、正直、親切、愉快地、
力と勇気と信念とをもって自己に課せられたる
責務を果たし、松商ナインの誇りをもって、立派な野球人として生きることを
自分自身の厳かなる誓いとする。

「松商野球部OB会『青年部』の発足について」

【2020年1月総会時の提案説明】

副幹事長及び長野県OB・OG野球連盟担当 深澤 友和(93回)
 硬式野球部および松商野球部OB会の活性化を図るには、若い力が必要と考えます。
 卒業した若い部員の声を聞くと、OB会総会へ参加するには、顔も知らない先輩が多くおり、行きづらく二の足を踏むように感じると言っています。参加しやすい体制と活動内容を明確にすることによって、OB会活動に参加するのではないのでしょうか。
 右記のように提案します。

1、目的

- ・ 伝統ある松商野球部OB会の継承および発展のため、若手人材の発掘・育成のため。
- ・ 現場（現野球部）との距離の近い存在として、野球部の強化・発展の協力をする。
- ・ 進学・就職の情報交換・収集をし、卒業生の進路の支援・相談をする。
- ・ 野球部OB会の親睦を図る。

2、活動予定

- ・ 会員名簿（住所・勤務先）の整備
- ・ マスターズ甲子園大会への参加、実行委員
- ・ 現役野球部との交流（OB戦、合宿時のノッカー等）
- ・ OB会会員同士の親睦・交流（野球大会・ゴルフコンペ）
- ・ 少年野球教室の開催。
- ・ その他 ボランティア活動。

※この様に総会時、深澤氏から提案説明がされ、「『青年部』を立ち上げる事を承認するので、中心となるメンバー組織を明確にして、OB会長と連携を取りながら進めてください。」と満場一致で発足が認められました。

そこで、中心となるべくメンバーやマスターズ甲子園に参加する選手・役員を集め、現役選手の3月春の合宿時に練習のお手伝いやOBと現役の練習試合及び組織作りの会議をする事を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の状況で発動が遅れております。

今回のOB会報で、進捗状況を報告する事が出来ませんでした。新型コロナウイルス緊急事態宣言や感染防止の収束状況を鑑み、現役部員が今までと同じような活動が出来るよう、支援していきたいと思っております。ご協力をお願いいたします。

（文責・OB会長 福岡）



令和元年度事業報告

開催日	内容
1月6日	練習はじめ
12日	球友会主催 必勝祈願祭・新年会
19日	松商野球部OB会総会・新年会
2月1日	松商野球部後援会 新年会
3月2日	父母会主催 3年生を送る会
4月9日	中信地区高等学校OB連盟 引継ぎ会
27日	第140回春季北信越地区高等学校野球中信予選支援 (4月27日～5月5日)
5月22日	中信地区高等学校OB連盟定期総会
27日	OB会会報編集委員会
6月26日	松商学園硬式野球部 部長・監督・スタッフ激励会
27日	松商野球部後援会総会
28日	OB会会報編集委員会反省会
7月6日	第10回全国高等学校野球選手権長野大会支援 (7月6日～7月21日)
8月24日	合宿激励(米・野菜等差し入れ) 第14回秋季北信越地区高等学校野球中信予選支援 (8月24日～9月8日)
9月4日	中信地区高等学校OB連盟会議 第14回秋季北信越地区高等学校野球長野県大会支援 (9月21日～9月29日)
10月3日	中信地区高等学校OB連盟 ゴルフ大会 マスターズ甲子園長野大会決勝
20日	中信地区高等学校OB連盟 野球大会
11月26日	松商野球部OB会役員会

松商野球部OB会役員

役職	氏名(年齢)	担当	氏名(年齢)
顧問	宮坂真一(41回)	幹事長	飯沼光永(73回)
顧問	下村幸雄(45回)	副幹事長	塩原久悦(82回)
顧問	高山一栄(56回)	顧問	圓山 徹(83回)
顧問	末岡幹也(57回)	顧問	小口卓哉(88回)
顧問	丸谷義一(60回)	顧問	堤 良一(92回)
顧問	高根 基(61回)	顧問	深澤友和(93回)
相談役	大月吉史(57回)	顧問	遠山裕太(106回)
相談役	中原英孝(63回)	顧問	関谷将宏(107回)
相談役	小尾淳美(77回)	会計	輪湖源和(86回)
相談役	望月 登	会計	桃井亮介(102回)
会長	唐木 裕(66回)	監事	宮川 昇(68回)
副会長	福岡 進(65回)	監事	大月弘士(83回)
副会長	召田三博(74回)	監事	前島秀俊(103回)
副会長	横山正志(75回)	監事	深澤友和(93回)
副会長	伊藤昌志(81回)	監事	戸谷正一(66回)

◆あともがき◆

初夏の候、皆様にはいっそうご活躍のこととお慶び申し上げます。

昨年のマスターズ甲子園長野大会は、決勝戦で長野日大高校に惜敗し2連覇とはなりませんでしたが、今年のマスターズ甲子園本大会は、長野県代表が出場できることになっており、単独出場を目指しています。

現在、母校野球部は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、4月10日からの休校に合わせ練習を自粛しております。インターハイ中止が決定し、夏の甲子園大会についても開催が危ぶまれており、部員たちは不安な気持ちで過ごされていると思われまます。

早期に収束し、夏の大会が開催されることを願っております。

第6号の会報発刊にあたりまして、花岡印刷様に心より感謝いたします。また、編集委員の皆さま大変ご苦労様でした。

母校野球部が益々活躍できるように役員一同努めてまいりますのでよろしくご協力をお願いいたします。

会員各位の益々の活躍をご祈念申し上げます。

松商野球部OB会
 幹事長 飯沼 光永

松商野球部OB会報	(Vol.6)
発行日	令和2年5月20日
発行所	進 編集委員
編集	福岡OB会報編集委員
	横山正志(75回)
	太田浩行(83回)
	山口卓哉(88回)
	小堀良一(92回)
	関谷将宏(107回)
	花岡印刷
印刷	(有)